

【関連資料】1. アクティブ・ラーニング・ワークショップ

Ⅲ. 関連資料

① 「大学教育力研修」開催案内

平成 29 年度 大学教育力研修について

開催日	平成 30 年 2 月 22 日 (木)
対象	全専任教員 (次年度より採用予定教員を含む) 高等教育附置機関および高等教育支援機関 職員 その他希望者 ※ただし、学生 (大学院生を含む) の参加は不可
内容	10 : 00 ~ 12 : 00 基調講演「大学入試における新共通テストの課題と高大接続の今後」 講師 大学入試センター教授 山地弘起先生 会場 大学教育棟 2014 521 教室 内容 2021 年度入試より開始される大学入学共通テストは、現センター入試を刷新するものとして、思考力重視へのマークシート式問題の見直し、国語と数学での記述式問題導入、民間の英語 4 技能試験の活用という 3 点に特徴づけられる。しかし、公平・公正な評価が実現しうるかに関しては未だ課題山積の状況である。そこで本講演では、まず共通試験の作成過程がどのようなものかを紹介したうえで、試行調査の結果などに基づいて新テストの課題を整理し、これらを通して高大接続のあるべき姿を展望する。 13 : 30 ~ 15 : 30 分科会 (各会場につきましては、当日お知らせいたします。) ①アクティブ・ラーニング ワークショップ 講師 愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室副室長・教授 中井俊樹先生 概要 「授業外学修を促す学修課題の組み立て方」 授業時間外の学修は、学生が授業における学習目標を達成するためだけでなく、学生の主体的な学習を促進し、自己の学習の管理能力や学習習慣などを身につける貴重な機会となる。学生が自発的に授業時間外に学修することだけに期待するのではなく、教員が明確に指示を与えるなどの工夫が必要になる。本研修では、授業時間外の学修を促す授業設計や具体的な課題の組み立て方を身につけることを目指す。 ②ルーブリック指標による成績評価に関するワークショップ 講師 高知大学 大学教育創造センター 地域協働学部・講師 俣野秀典先生 概要 「ルーブリック評価スタートアップ～評価の原則から組織での活用まで」 (定員 40 名) 評価が学修に与える影響は大きい。本ワークショップでは、教育評価の基本的な原理、さまざまな方法と工夫を紹介することで、学生の学修を促進させる教育評価のあり方を参加者とともに考えたい。

【関連資料】1. アクティブ・ラーニング・ワークショップ

② 「アクティブ・ラーニング・ワークショップ」開催案内

平成 29 年 12 月 18 日

科目担当者各位

大学FD委員会

アクティブ・ラーニング ワークショップの開催について（ご案内）

平素より本学の教育にご理解・ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、下記の要領にてアクティブ・ラーニング ワークショップを開催いたします。
ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、是非ご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

アクティブ・ラーニング ワークショップ

「教育活動と IR をどうつなげるかーアクティブ・ラーニングの観点から」

〈日時〉 平成 30 年 1 月 18 日（木） 17:30～（19:30 終了予定）

〈内容〉 大学教育における質保証は、現在、多くの大学で課題となっています。
その解決のカギを握るものとして、注目されているのが「教学 IR」であり、各大学
では競って IR 関連の部署を立ち上げ、種々のデータの収集に取り掛かっています。
しかし、教育への活用には課題が多いのも現状です。そこで今回は、前半に組織的
なデータ収集・活用の可能性と課題を紹介し、後半のワークショップでは大学で収
集するデータだけでなく、授業中に入手可能な学生のデータを用いて、授業改善の
方策およびそのデータを教員間で共有するシステムの構築に向けて、参加者のみな
さまとともに考えていきたいと思ひます。

〈講師〉 熊本大学 准教授 川越明日香先生

〈場所〉 大学教育棟 2014 512 教室

〈申し込み方法〉

参加を希望される方は、裏面申込用紙にご記入の上、1 月 11 日（木）までに教育学部教育学修
支援課にお送りください（学内便可）。また、E メールでのお申込
（il-supports@tamagawa.ac.jp）の際は、申込用紙の内容をご確認いただき、同じ内容をお
送りください。

※非常勤の先生方への研修会参加に伴う交通費支給はありませんのでご承知おきください。
※ご不明な点は、教育学部教育学修支援課（042-739-8866）までご連絡ください。

以 上

【関連資料】3. アクティブ・ラーニングに関する教員アンケート調査

① 平成 29 年度アンケート調査用紙

事務 確認欄	調査票番号	
	所属区分①	
	所属区分②	

《ご回答にあたってのお願い》

- ①調査用紙はご担当いただいている授業ごとに別葉となっております。この調査用紙には下記に示されている授業についてご回答ください。
- ②複数の先生方で担当いただいている授業は、代表の先生にお願いしております。
- ③新カリ・旧カリの両方に対応している授業は、どちらか片方の科目名を表示しています。
- ④集中授業や特定の授業については、調査（配付）をしていない場合があります。

担当者名：

科 目 名：

種 別：

曜 日：

時 限：

教 室：

受講人数：

A

授業を行う上で、以下の事柄が適切であったかどうか、あてはまるもの一つに○をつけてください。

		適切	どちらかといえ ば適切	どちらかといえ ば不適切	不適切
1	教室の温度	4	3	2	1
2	教室の広さ	4	3	2	1
3	学生の人数	4	3	2	1
4	視聴覚設備	4	3	2	1

B

科目ごとの「授業を通して修得できる力」は、シラバスや履修ガイドに明記されておりますが、どのくらい意識して取り組まれたか、あてはまるもの一つに○をつけてください。

※平成 24 年度以前の入学者を対象とした科目については 4 つ以上の「授業を通して修得できる力」が設定されている場合がありますが、その中から 3 つのみを記載しております。ご了承ください

		とても意識して 取り組んだ	意識して取り組んだ	少し意識した	あまり意識しなかった
1	知識・理解(多文化・異文化)	4	3	2	1
2	汎用的技能(論理的思考力)	4	3	2	1
3		4	3	2	1

裏面のアンケートにもお答えください。

C

ご担当の授業で、以下のような「授業における取り組み」をどのくらい行われたでしょうか？各項目であてはまるもの一つに○をつけてください。

		ほとんど毎回の授業で行う	15回中半分の授業で行っている	ときどき授業の中で行う	まったく行っていない
1	コメントおよび質問とそのフィードバック	4	3	2	1
2	小テスト(採点・返却、できなかったところの見直しも含む)	4	3	2	1
3	振り返りシート(ポートフォリオも含む)	4	3	2	1
4	レポートライティング・卒業論文 など	4	3	2	1
5	授業内での動画やメディアの活用	4	3	2	1
6	ペアワーク:隣同士などで一緒に話し合い、作業する	4	3	2	1
7	ディベート:テーマに対して、あえて賛成と反対の意見を用意して、両方を戦わせ、どちらの論理展開がより優れていたかを判定する	4	3	2	1
8	プレゼンテーション:研究結果や実験結果などを全員の前でわかりやすく発表する	4	3	2	1
9	問題解決型学習・課題解決型学習(Problem-Based Learning): 与えられた事例について、学生が自分たちで問題を発見し、自己学習を行い、問題を解決していく	4	3	2	1
10	フィールドワーク(実地調査): テーマに即した場所(現地)を実際に訪れ、対象を直接観察し、関係者への聞き取り調査やアンケート調査、現地での資料の採取を行う(自然観察や野外活動なども含む)	4	3	2	1
11	実験・実習・授業内の演示実験など: 物理実験・工学実験・生物実験・化学実験・心理実験・社会実験などを含む	4	3	2	1
12	反転学習:学習内容を自宅で動画等を視聴して予習し、教室では講義は行わず、課題について他の学生と協力しながら取り組む	4	3	2	1
13	ロールプレイング:ある特定の(自分と違う)立場の人(動物やモノの場合もある)になったつもりで、問題について考え、それを表現する	4	3	2	1
14	グループワーク:数名のグループで話し合い、作業する	4	3	2	1
15	ピア・サポート:授業内外で理解や作業が進んでいる学生が遅れている学生の支援をする	4	3	2	1
16	ディスカッション:与えられたテーマに対して、クラス全体やグループなどで意見交換し、意見の集約や気づきを導きだし、考察を深めていく	4	3	2	1
17	プロジェクト学習(Project-Based Learning):グループで、解決方法が知られていないテーマについて、プロジェクト実行のためのフレームワークの設定、実施計画立案などを行う	4	3	2	1
18	チーム・ティーチングの活用:複数の教員が1つの教室で協力して授業を行うか、または協力して掛け合いで連携するなど(オムニバス型授業とは異なる)	4	3	2	1
19	ゲストスピーカーの活用:学内外からゲストを招き、専門分野について講演してもらう	4	3	2	1
20	課題や資料等の提供(Bb や Bb 以外のものも含む)	4	3	2	1
21	Bb 等のディスカッションボードを用いたディスカッション	4	3	2	1
	その他学生の能動的学修を促す工夫があれば、以下に記述し○をつけてください				
22		4	3	2	1
23		4	3	2	1
24		4	3	2	1

D

授業を受講した学生の変化について

ご担当の授業において、学期の始めの頃と比較すると、学生に変化がみられたでしょうか？以下の視点について(主観的なご意見で結構です)あてはまるもの一つに○をつけてください。

		そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	この授業は該当しない
1	試験の点数が向上した	3	2	1	0
2	レポートの質が向上した	3	2	1	0
3	演習・課題・作品制作がスムーズになった	3	2	1	0
4	質疑応答や討論が活発化した	3	2	1	0
5	友達同士で課題について討論、相談するようになった	3	2	1	0
6	課題プリント・レポートにおいて独自の考察を行うようになった	3	2	1	0
7	社会の問題等が自身の環境に関係が深いと認識するようになった	3	2	1	0
8	不明瞭な点について積極的に質問したり、意欲的に発言するようになった	3	2	1	0
9	種々の資料を用いて問題・課題をより詳しく調べるようになった	3	2	1	0
10	自分なりの疑問点を提示することができるようになった	3	2	1	0
11	2つ以上の見解を提示し、考察できるようになった	3	2	1	0
12	自分の主張／仮説について論点を整理した上で、具体的な根拠をあげて比較・分析することができるようになった	3	2	1	0
13	自分の主張／仮説と反するデータ／意見を理解し、取り入れて、自分の見解を再構築することができるようになった	3	2	1	0
14	問題の要因を細分化し、的確に分析できるようになった	3	2	1	0
15	問題解決のために知識、資料、データの収集と活用ができるようになった	3	2	1	0
16	問題解決のために他者と意見交換し、協力できるようになった	3	2	1	0
17	問題解決のために適切な手段、方法を提示できるようになった	3	2	1	0
18	学生同士の意見交換や質疑等が増えた	3	2	1	0
19	相手の話に共感を示しながら聴くようになった(あいづち・アイコンタクト等)	3	2	1	0
20	話のポイントを押さえ、質問を考えながら聴くようになった(メモをとっている等)	3	2	1	0
21	相手に届く発声や姿勢を意識して表現するようになった	3	2	1	0
22	相手に伝わるように必要な情報を与え、わかりやすく話を構成するようになった	3	2	1	0
23	授業外課題を指示したようにやってくるようになった	3	2	1	0
24	授業外課題の内容が向上した	3	2	1	0
25	授業前後に課題の内容についての質問や発展的な質問をするようになった	3	2	1	0
26	プレゼンテーションの前に練習をしてくる	3	2	1	0
27	授業時間外に準備や発展的な学修に取り組むようになった(検定試験受験準備を含む)	3	2	1	0
28	授業外に複数の学生で勉強するようになった	3	2	1	0

ご協力ありがとうございました。

第3回

ティーチング・ポートフォリオ作成 ワークショップ

平成 29 年 11 月 4 日（土）

平成 29 年 12 月 16 日（土）

玉川大学 大学教育棟 2014

I. ワークショップの運営

1. ティーチング・ポートフォリオ・ネットワークが作成している「ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ基準」に沿って、ワークショップを運営いたします。
<http://www.teaching-portfolio-net.jp/ws-standard/>
2. 3～4回の個人メンタリングを通して、ポートフォリオの作成を進めます。分量の目安は UNITAMA 画面上の印刷機能を利用して、A4・5～7 ページ程度です（添付ファイルを含まない）。
3. メンタリングで決定した範囲のポートフォリオを次ページの期限までに UNITAMA で作成してください。プレゼンテーション資料は PowerPoint スライド 4 枚以内で作成してください。
4. 最終日のプレゼンテーション（ハイライトの発表）は発表 7 分、質疑応答 3 分の予定です。
5. ポートフォリオ作成にあたって相談・確認したいことがございましたら、お気軽に担当のメンターにご連絡ください。
6. UNITAMA の操作・機能につきましては、教務課にお問い合わせください。

Ⅱ. スケジュール

1. メンティー

	11月4日(土)	11月～12月	12月16日(土)
9:00			(9:00 開始)
10:00			個人メンタリング 【4階 CR (4部屋)、3階教育学修支援課内 (応接室、ミーティングルーム)】 TP 作成・プレゼン準備 【793 会議室】
11:00			To be a good mentor 【793 会議室】
12:00		個人メンタリング TP 作成	ハイライトの発表 【793 会議室】
		※TP 作成にあたって相談・確認したい点がありましたら、お気軽に担当メンターにご連絡ください。	修了式 【793 会議室】
13:00	オリエンテーション 【793 会議室】		片付け
14:00	ミニワーク 【793 会議室】	(意見交換)	
15:00	個人メンタリング 【409、410、411 教室 3階教育学修支援課内 (応接室、ミーティングルーム)】 TP 作成 【793 会議室】		
16:00			
17:00	TP 作成 【793 会議室】		
18:00	意見交換		

【提出期限】

第一稿 11月4日(土)
 第二稿 11月30日(木)
 最終稿 12月25日(月) 17時

※期限までに作成した第一稿から最終稿までのポートフォリオをそれぞれ UNITAMA から Word に出力し、お手許に保存しておいてください。

2. メンター・スーパーバイザー

	11月4日(土)	11月～12月	12月16日(土)
9:00			(9:00 開始)
10:00			個人メンタリング 【4階 CR (4部屋)、3階教育学修支援課内 (応接室、ミーティングルーム)】 メンターミーティング 【409 教室】
11:00			To be a good mentor 【793 会議室】
12:00	メンターミーティング 【793 会議室】		ハイライトの発表 【793 会議室】
	昼食 【793 会議室】	個人メンタリング	修了式 【793 会議室】
13:00	オリエンテーション 【793 会議室】	※メンティーより相談等がございましたらご対応願います。	
14:00	ミニワーク 【793 会議室】	(意見交換)	
15:00	個人メンタリング 【409、410、411 教室 3階教育学修支援課内 (応接室、ミーティングルーム)】 メンターミーティング 【411 教室】		
16:00			
17:00	メンターミーティング 【411 教室】		
18:00	意見交換		

Ⅲ. 修了証授与基準

以下の基準に沿ってワークショップの修了証を授与いたします。

1. 3回以上の個人メンタリングを通して期日までにポートフォリオを作成していること。
2. UNITAMA で「9. 特筆すべき教育上の取り組み」を除くすべての項目を作成していること。
3. 最終日にプレゼンテーションを実施していること

2017.11

未来の玉川大学を創るのは あなたの「声」

Question



卒業して3年。

あなたにとって「意味」を感じた
学びとは、何でしたか？

平成 26 年度卒業のみなさまへ

玉川大学卒業生アンケート調査へのご協力のお願い

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、玉川大学では、卒業後の社会において活躍できる人材の輩出をめざし、様々な教育改革を実施しております。特に注力して進めておりますのは、どのような時代や社会においても通用する高次汎用能力の育成です。このような取り組みは、「社会人基礎力」や「学士力」として求められている社会的ニーズに応えることでもあります。

つきましては、卒業生の皆様に協力をお願いし、社会に出て実感されていることをお聞かせ頂ければと存じます。皆様からいただいた貴重な回答を参考に、玉川大学の今後の教育改革に生かしていきたいと存じますので、何卒本アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

敬具

12月15日（金）までに、ご投函いただきますようお願いいたします。

※本アンケート調査は、富士ゼロックス株式会社に業務委託して実施いたします。
そのため、調査用紙の郵送・回収は富士ゼロックス株式会社が代行いたします。

【調査主体】

玉川大学 教学部 教務課

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

電話:042-739-8802

【お問い合わせ】

玉川学園 総務部 DTS (DocuTechStation)内

富士ゼロックス

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

電話:042-739-8729 (平日 8:30~17:30)

回答者の属性1～7について、該当する番号に○印をご記入願います。

属性 1

1. 男性 2. 女性

属性 2

1. AO型入学審査 2. 学内入試 3. 指定校推薦 4. 公募制推薦 5. 一般入試
6. その他()

属性 3

学部	学科名	回答欄	学部	学科名	回答欄
文学部	A. 人間学科		経営学部	I. 国際経営学科	
	B. 比較文化学科			J. 観光経営学科	
農学部	C. 生物資源学科	教育学部	K. 教育学科		
	D. 生物環境システム学科		L. 乳幼児発達学科		
	E. 生命化学科		M. 機械情報システム学科		
芸術学部	F. パフォーミング・アーツ学科	工学部	N. ソフトウェアサイエンス学科		
	G. メディア・アーツ学科		O. マネジメントサイエンス学科		
	H. ビジュアル・アーツ学科	リベラルアーツ学部	P. リベラルアーツ学科		

属性 4

1. 会社員（公務員を除く団体職員含む正規の社員・職員） 2. 自営業 3. 公務員 4. 契約社員・派遣社員
5. パート・アルバイト 6. 専業主婦 7. その他（ ）

属性 5

1. 農業・林業
2. 漁業
3. 鉱業・採石業・砂利採取業
4. 電気・ガス・熱供給・水道
5. 建設
6. 製造業
7. 商社・卸売業
8. 小売業
9. 金融
10. 広告・出版・新聞・放送
11. 通信・インターネットサービス
12. IT・ソフトウェア開発
13. 運輸・鉄道・航空
14. 住宅・不動産
15. 外食
16. ホテル・旅館
17. 旅行
18. 医療・福祉関連
19. 人材サービス
20. 教育関連
21. その他()

属性 6

1. 専 門 ・ 技 術
医師、教員（大学・小中学校）、法律家、看護師、栄養士、保育士、エンジニア、デザイナー、俳優、職業スポーツ家、習い事の先生、インストラクター、宗教家、著述家、司書など
2. 管 理
会社・官庁・団体の役員、課長以上の管理職、議員など
3. 事 務
事務系会社員・公務員、事務機器操作員（オペレーター）、集金人など
4. 営 業 ・ 販 売
小売店主、卸売店主、販売店員、営業社員、セールス、外交員、商品の仕入れ人など
5. サービス
飲食店店主・店員、理美容師、ホームヘルパー、家政師、調理師、ウェ이터、客室乗務員、旅館・ホテルの案内人、パチンコ店の店員、クリーニング職など
6. 生産技能・作業
工具、職人、大工、土木作業者、清掃員、倉庫労働者など
7. 保 安
警察官・消防士・自衛官、守衛など
8. その他（ ）

属性 7

1. 100 人未満 2. 100 人以上 300 人未満 3. 300 人以上 500 人未満
4. 500 人以上 1000 人未満 5. 1000 人以上 3000 人未満 6. 3000 人以上 5000 人未満
7. 5000 人以上

Q1-①

大学時代に培った能力についてお尋ねします。

下記の社会人基礎力 A～L ※は、自分が現職業務を遂行するうえで、どの程度役立っていますか？
これまでの職務経験をもとに下記選択肢 1～4 より一つ選び、回答欄に○印を付けてください。

社会人基礎力 A～L		1 かなり役立っている	2 どちらかといえば役立っている	3 あまり役立っていない	4 全く役立っていない
前に 踏み出す力 (アクション)	A. 主体性 (物事に進んで取り組む力)				
	B. 働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力)				
	C. 実行力 (目的を設定し確実に行動する力)				
考え抜く力 (シンキング)	D. 課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力)				
	E. 計画力 (課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)				
	F. 創造力 (新しい価値を生み出す力)				
チームワークで 働く力 (チームワーク)	G. 発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)				
	H. 傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)				
	I. 柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力)				
	J. 状況把握力 (自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)				
	K. 規律性 (社会のルールや人との約束を守る)				
	L. ストレスコントロール力 (ストレスの発生源に対応する力)				

Q1-②

また、それらの社会人基礎力 A～L は大学時代のどのような活動や場面で身についたと思いますか？

下記の活動や取組 (a～i) の中から一つ選び、A～L までの能力それぞれについて回答欄に○印を付けてください。

社会人基礎力 A～L		a 大学の授業	b ゼミ・研究室	c クラス制	d クラブ・サークル	e コスモス祭	f アルバイト	g ボランティア	h 海外留学	i その他
前に 踏み出す力 (アクション)	A. 主体性									()
	B. 働きかけ力									()
	C. 実行力									()
考え抜く力 (シンキング)	D. 課題発見力									()
	E. 計画力									()
	F. 創造力									()
チームワークで 働く力 (チームワーク)	G. 発信力									()
	H. 傾聴力									()
	I. 柔軟性									()
	J. 状況把握力									()
	K. 規律性									()
	L. ストレスコントロール力									()

Q2

大学時代に培った能力についてお尋ねします。

Q1-②で、「a. 大学の授業」を一つ以上記入した方のみ、以下に回答ください。

社会人基礎力が身についたと思う授業は、どのような科目ですか？ 下記から選び、該当する番号に○印を付けてください。
(複数回答可)

1. 外国語科目
2. 教養科目
3. 専門科目
4. 卒業研究・卒業論文
5. その他 ()

※ 社会人基礎力の説明

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱しています。
企業や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となってきています。

Q3-①

大学での授業形態と社会人基礎力の関連について、以下質問します。

以下の回答欄にある授業形態はどれくらいありましたか？
回答欄の選択肢1～4から一つ選び、回答欄に○印を付けてください。

Q3-②

①で1と2を選択した授業についてのみ回答ください。

身についたと思える社会人基礎力がある場合、どの社会人基礎力が培えたのか、以下の選択肢A～Lから3つまで選び、回答欄に○印を付けてください。

- | | | | | |
|--------|----------------|--------|----------|----------|
| A. 主体性 | B. 働きかけ力 | C. 実行力 | D. 課題発見力 | E. 計画力 |
| F. 創造力 | G. 発信力 | H. 傾聴力 | I. 柔軟性 | J. 状況把握力 |
| K. 規律性 | L. ストレスコントロール力 | | | |

回答欄

授業形態		Q3-①				Q3-②											
		1 多かった	2 やや多かった	3 あまりなかった	4 全くなかった	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
(1)	講義形式で知識や理論を教える授業																
(2)	実験・実技・実習形式の授業																
(3)	演習形式の授業																
(4)	フィールドワーク																
(5)	職場体験実習																
(6)	グループワークやペアワークなどの学生同士のコミュニケーションの多い授業																
(7)	ディベートやディスカッションなど学生同士で意見交換・議論する機会の多い授業																
(8)	一つの課題について少人数のグループで討議し解決策を考えさせられる授業																
(9)	プレゼンテーションや発表の機会のある授業																
(10)	論文やレポート提出のある授業																
(11)	その他（ ）																

何かご意見がありましたらご記入ください。

I. はじめに

1. 卒業生アンケート調査概要
2. 属性について

1

1. 卒業生アンケート調査概要

卒業生アンケート調査

I. 調査の概要

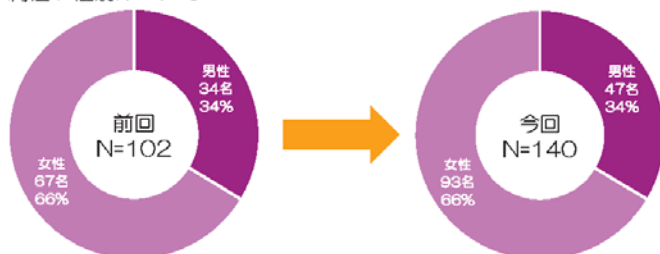
調査対象	平成26年度の卒業生
調査期間	2017年11月15日～2017年12月15日
調査項目	属性、大学時代に培った能力、社会人基礎力が身についた活動/場面/授業 授業形態、社会人基礎力が培えた授業形態
調査方法	アンケート用紙の郵送による回答依頼と回収
回収件数	141件（1,570名へ調査依頼、回答率9.0%） （前回は、1,427名へ調査依頼し102名の回答、回答率7.1%）

2

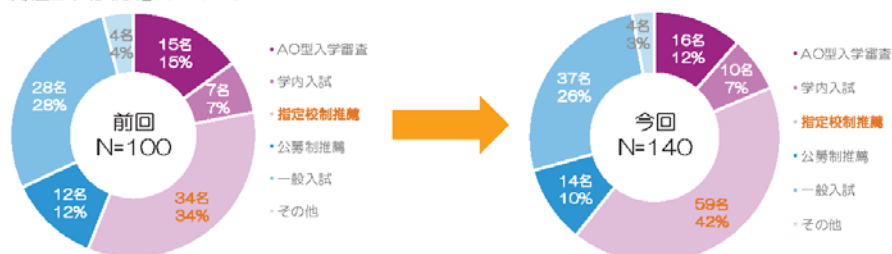
2. 属性について（その1）

- 性別については、前回と同じ男女比率となりました。
- 入試形態については、指定校制推薦の比率が8%増えましたが、ほぼ前回同様の傾向となりました。

■属性1 性別について



■属性2 入試形態について

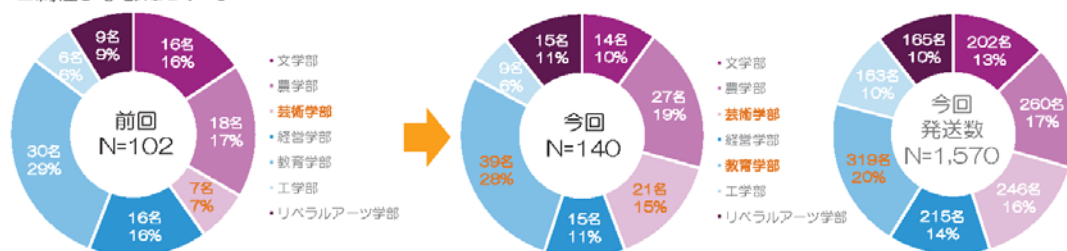


3

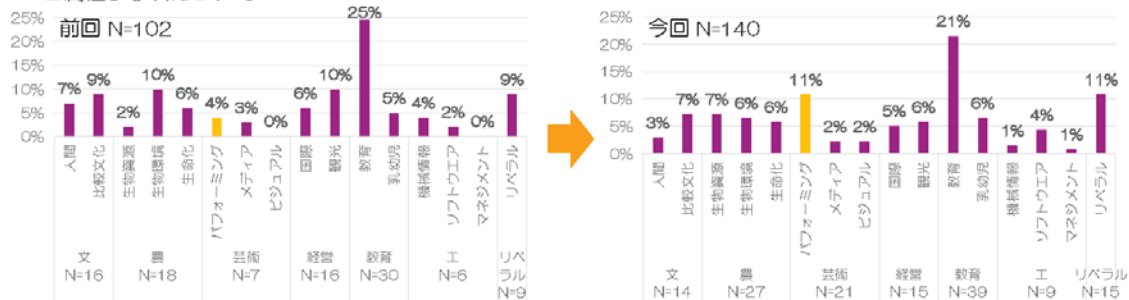
2. 属性について（その2）

- 学部については、芸術学部の比率が8%増えましたが、ほぼ前回同様の傾向となりました。
- 学部に対する回答比率では、教育学部が8%多い結果となりました。
- 学科については、パフォーミングアーツ学科の比率が7%増えましたが、ほぼ前回同様の傾向となりました。

■属性3 学部について



■属性3 学科について

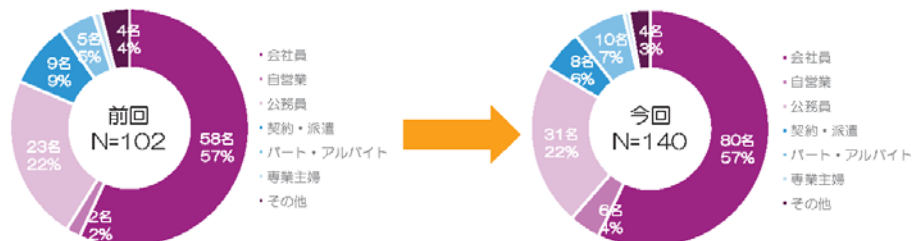


4

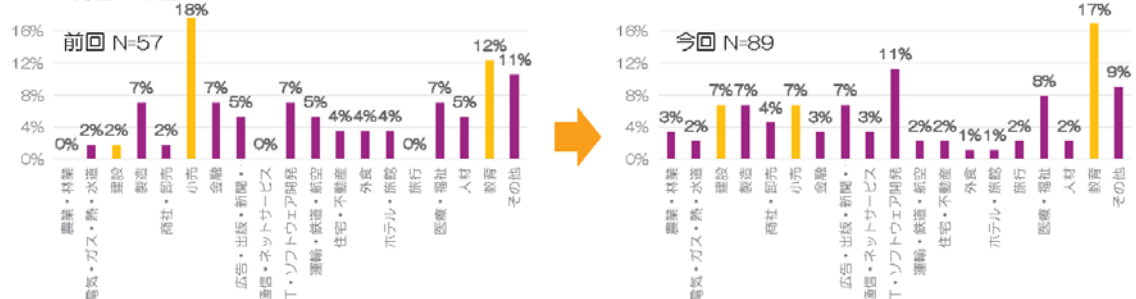
2. 属性について（その3）

- 職業については、ほぼ前回同様の傾向となりました。
- 業種については、教育・建設の比率が増え、小売の比率が減りました。

■属性4 職業について



■属性5 業種について

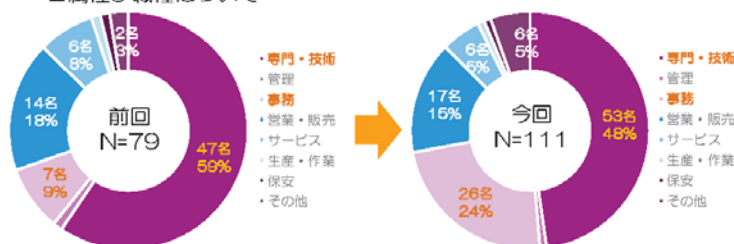


5

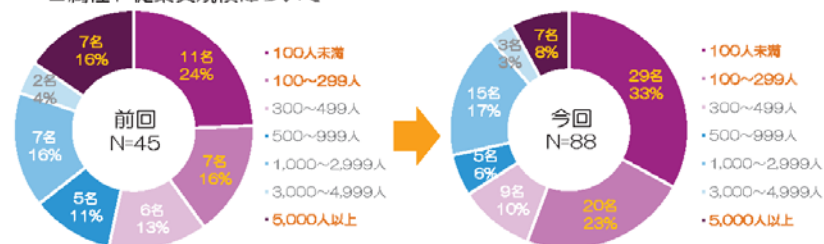
2. 属性について（その4）

- 職種については、専門職の比率が減り、事務職の比率が増えました。
- 従業員規模については、5,000人以上の比率が減り、300人未満の比率が増えました。

■属性6 職種について



■属性7 従業員規模について



6

Ⅱ. 大学時代に培った社会人基礎力について

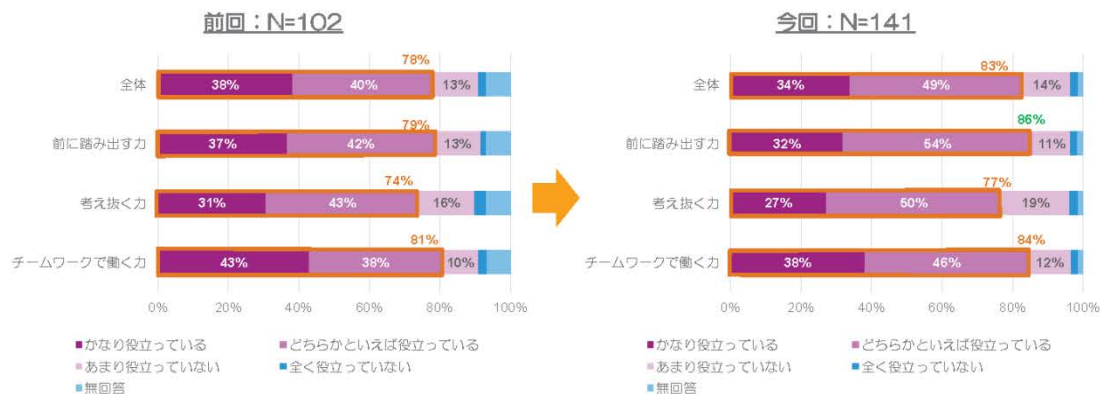
1. 職務遂行上の役立ち度
2. 基礎力を培えた活動や場面
3. 授業形態と基礎力の関係

7

1. 業務遂行上の役立ち度（その1）

- 役立ち度について、全体と能力別ともに、前回を上回る肯定回答の割合となりました。
- 【前に踏み出す力】の肯定回答の割合が最も多く、前回から7% (79%⇒86%) 増えました。

■能力別の役立ち度

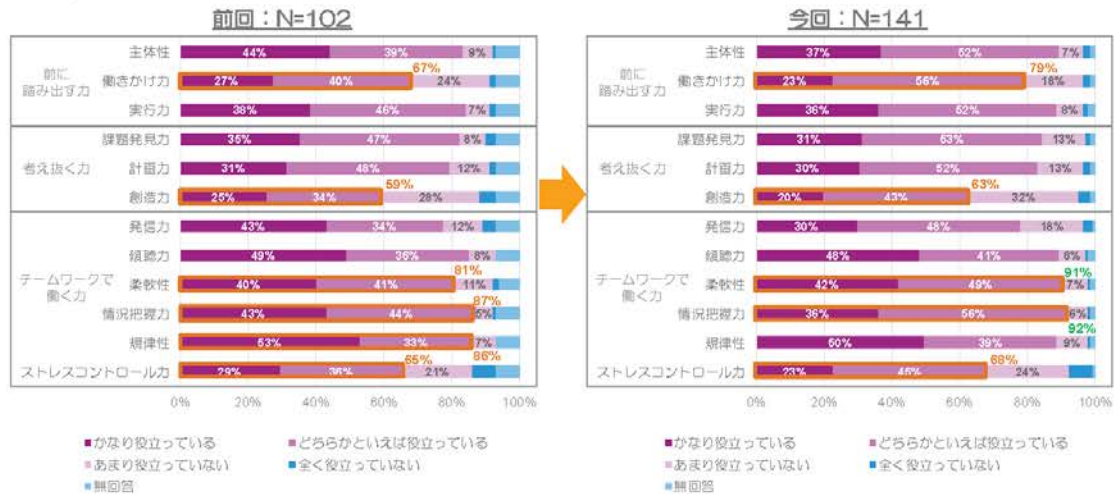


8

1. 業務遂行上の役立ち度（その2）

- 肯定回答の割合が高い上位2項目は、【情報把握力】と【柔軟性】となりました。
（前回の上位2項目は、【情報把握力】と【規律性】でした。）
- 肯定回答の割合が低い上位2項目は、【創造力】と【ストレスコントロール力】で前回同様となりました。
- 肯定回答の割合が前回比で増えた上位2項目は、【働きかけ力(12%増)】と【柔軟性(10%増)】となりました。

■能力要素別の役立ち度

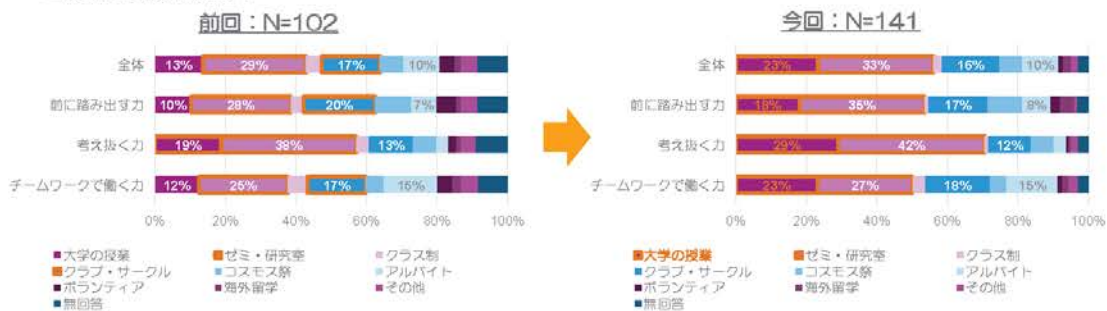


9

2. 基礎力を培えた活動や場面（その1）

- 基礎力を培えた上位2項目は、全体と能力別ともに、「ゼミ・研究室」と「大学の授業」となりました。
（前回の上位2項目は、【考え抜く力】以外は、「ゼミ・研究室」と「クラブ・サークル」でした。）
- 基礎力を培えた場面として、「大学の授業」の回答割合が、全体と能力別ともに前回比で8%以上増えました。
- 授業科目別では、「専門科目」と「教養科目」の割合が減り、「卒業研究・論文」の割合が増えました。

■能力別の活動や場面



■授業科目別の役立ち度

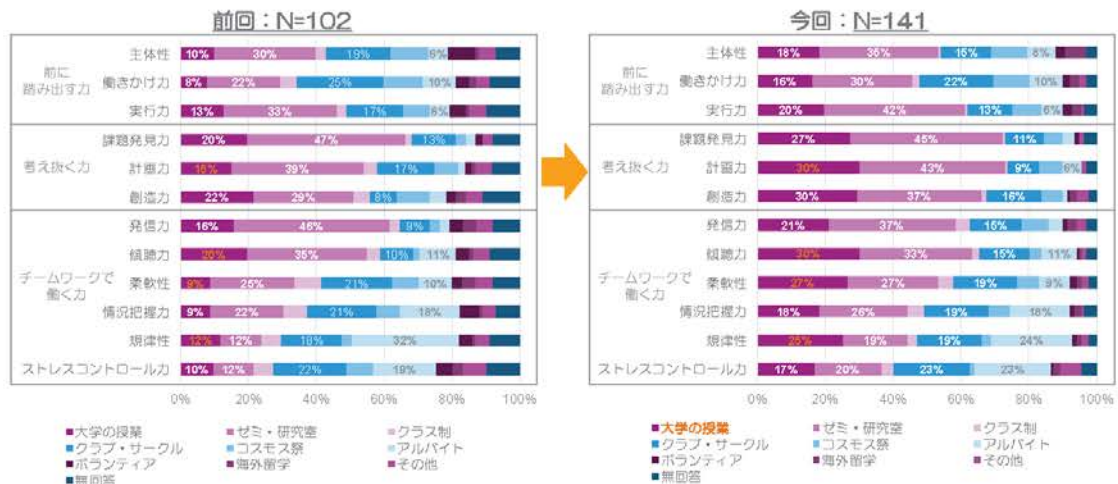


10

2. 基礎力を培えた活動や場面（その2）

- 基礎力を培えた場面として、【大学の授業】の回答割合が前回比で10%以上増えた項目は、下記となりました。
【柔軟性(18%増)】【計画性(15%増)】【規律性(13%増)】【傾聴力(10%)】
- ✓ P.10の業務遂行上の役立ち度において、【柔軟性】の肯定回答の割合が前回比で10%増えた要因として、【大学の授業】の貢献度が上がったと考えられます。

■能力要素別の活動や場面

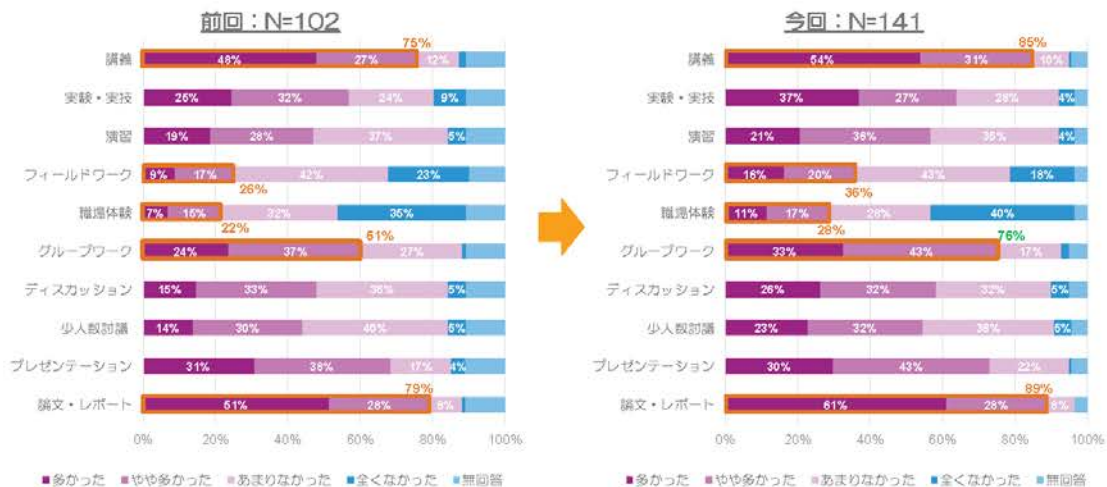


11

3. 授業形態と基礎力の関係（その1）

- 授業形態の頻度が多かった上位項目は、前回同様で「論文・レポート」と「講義」となりました。
- 授業形態の頻度が少なかった上位項目も、前回同様で「職場体験」と「フィールドワーク」となりました。
- 授業形態の頻度で「グループワーク」が、前回比で15%(61%⇒76%)増えました。

■授業形態の頻度

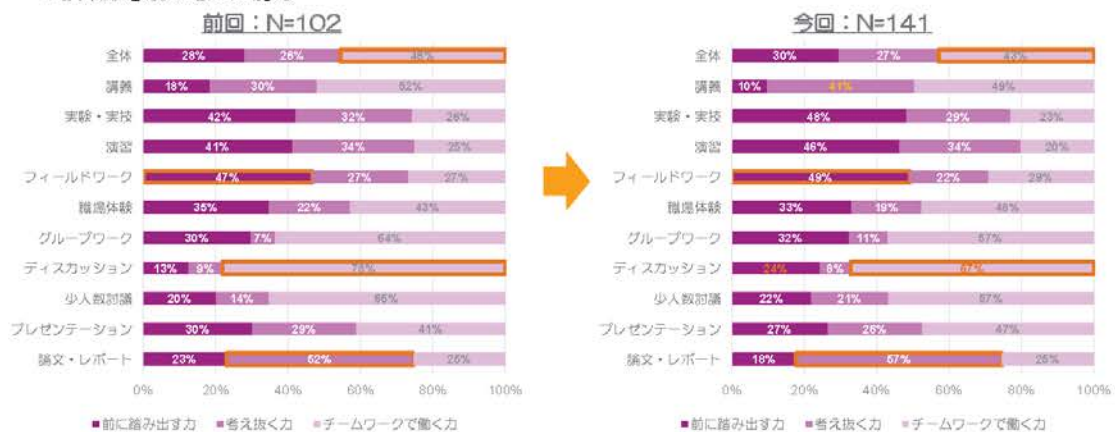


12

3. 授業形態と基礎力の関係（その2）

- ▶ 全体では、【チームワークで働く力】を培ったとする回答割合が、前回同様に高い結果となりました。
- ▶ 下記の授業形態は、前回同様の結果から、次のような関係性が高いと思われます。
 - ✓ 「フィールドワーク」：【前に踏み出す力】を培いやすい。
 - ✓ 「ディスカッション」：【チームワークで働く力】を培いやすい。
 - ✓ 「論文・レポート」：【考え抜く力】を培いやすい。
- ▶ 「講義」において、【考え抜く力】を培えたとする回答割合が、前回比で11%増えました。
- ▶ 「ディスカッション」において、【前に踏み出す力】を培えたとする回答割合が、前回比で11%増えました。

■ 授業形態別の培った能力

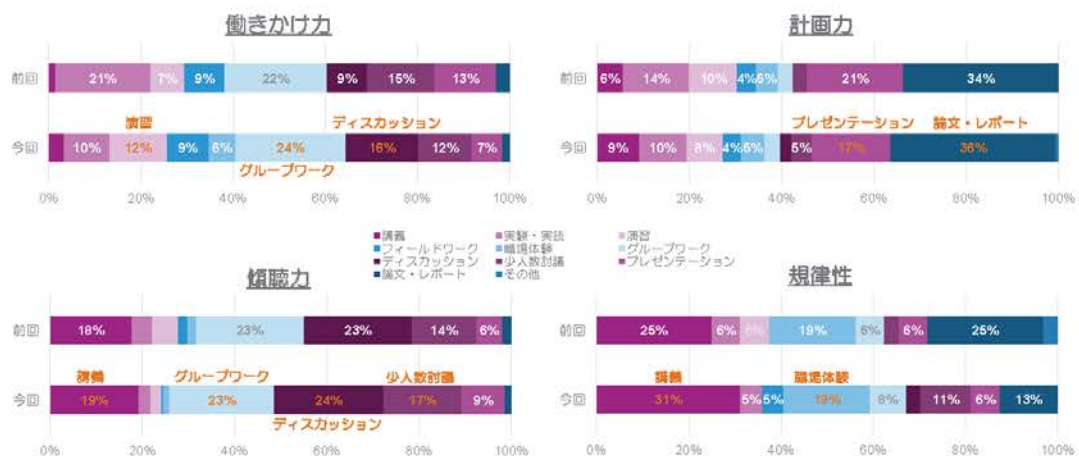


13

3. 授業形態と基礎力の関係（その3）

- ▶ 【働きかけ力】は、「グループワーク」「ディスカッション」「演習」を通じて培われやすいと思われます。
- ▶ 【計画力】は、「論文・レポート」「プレゼンテーション」を通じて培われやすいと思われます。
- ▶ 【傾聴力】は、「ディスカッション」「グループワーク」「少人数討議」「講義」を通じて培われやすいと思われます。
- ▶ 【規律性】は、「講義」「職場体験」を通じて培われやすいと思われます。

■ 培った主な能力の授業形態



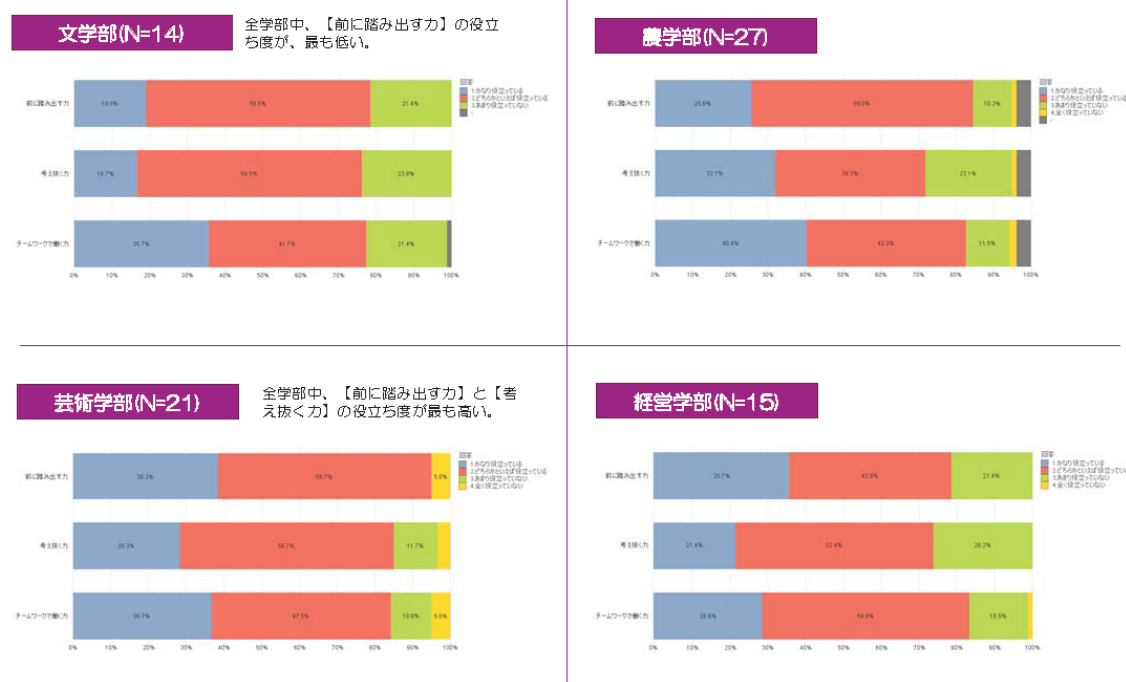
14

Ⅲ. 学部別の分析結果

1. 職務遂行上の役立ち度
2. 基礎力を培えた活動や場面
3. 授業形態について

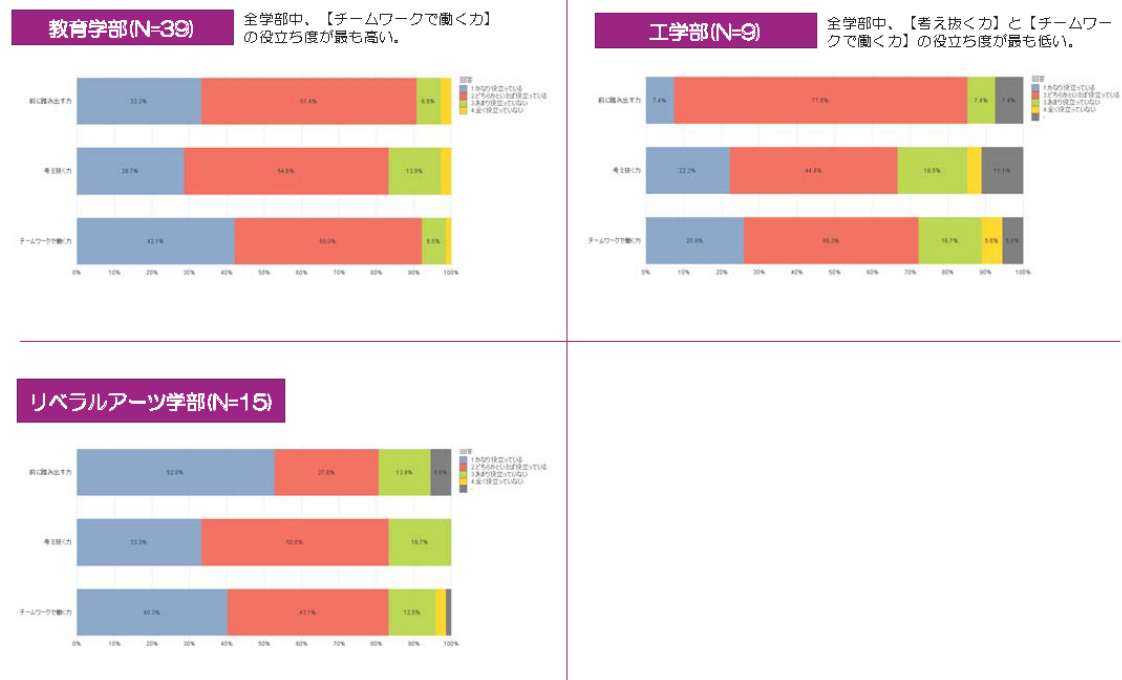
15

1. 業務遂行上の役立ち度（その1）



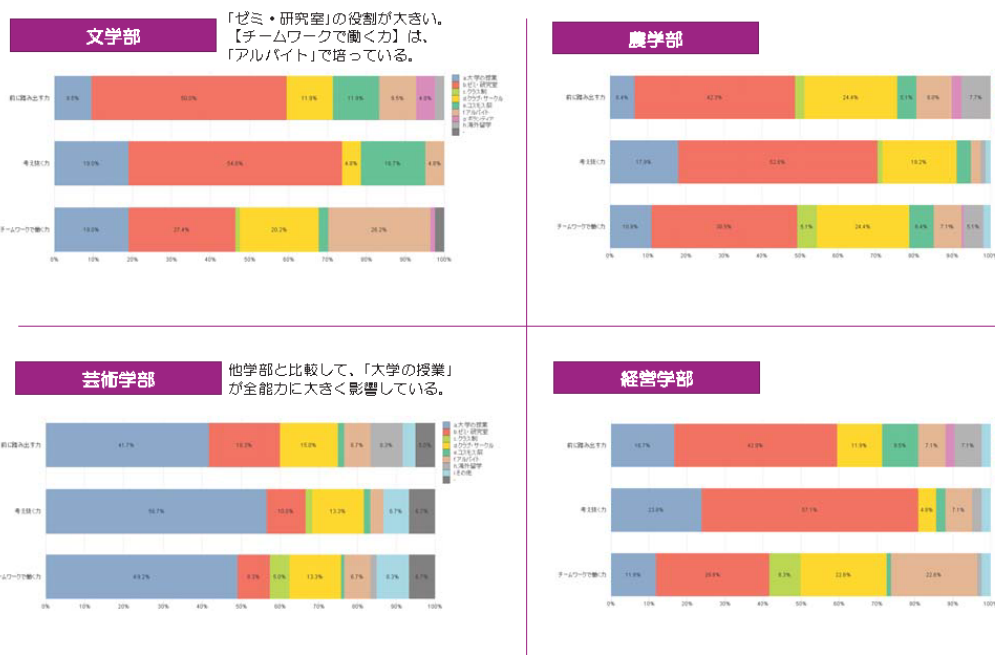
16

1. 業務遂行上の役立ち度（その2）



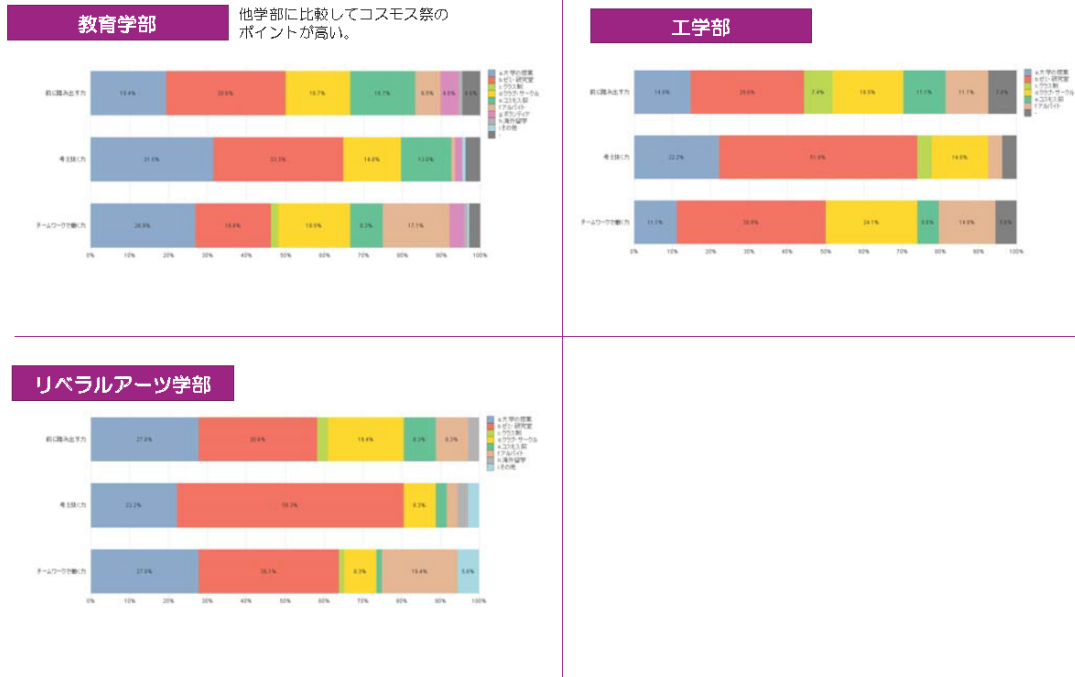
17

2. 基礎力を培えた活動や場面（その1）



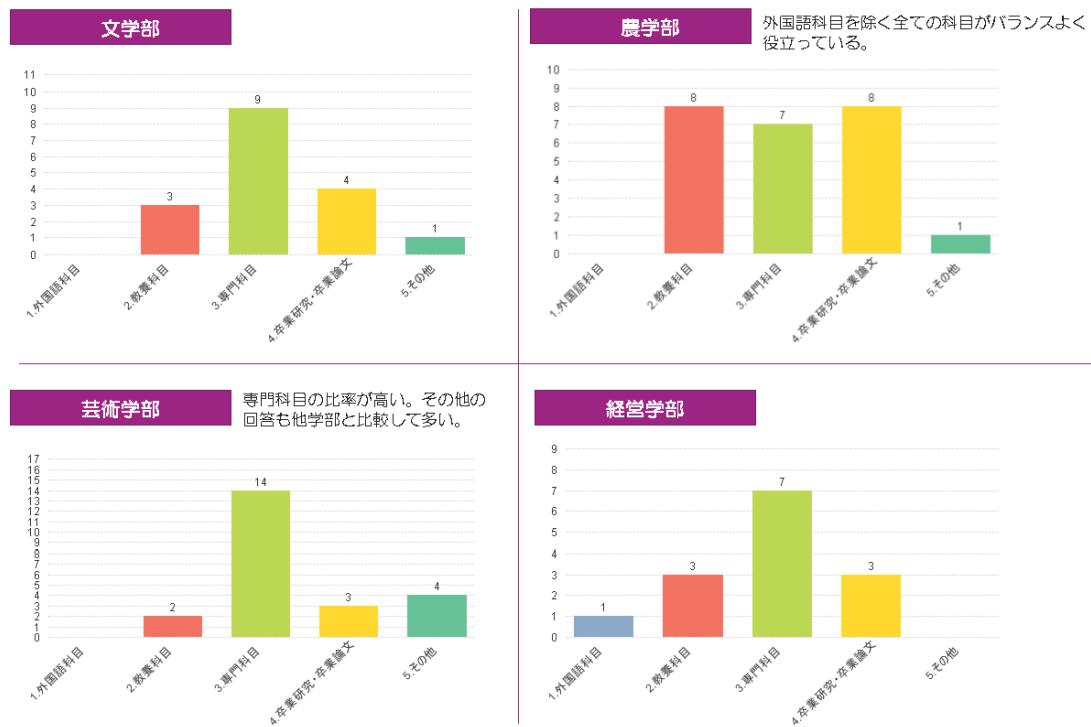
18

2. 基礎力を培えた活動や場面（その2）



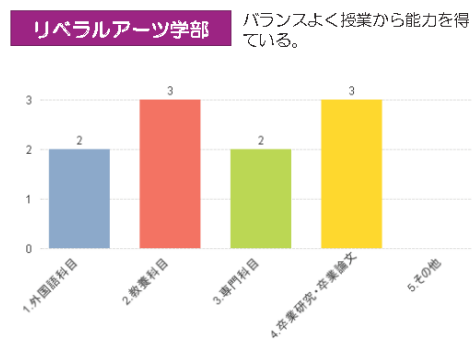
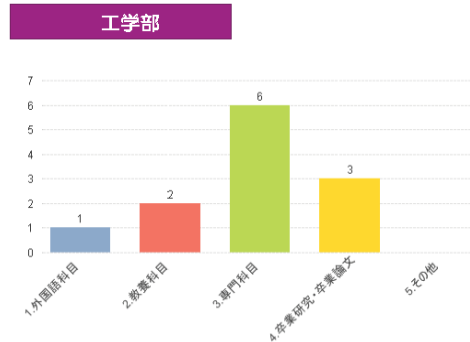
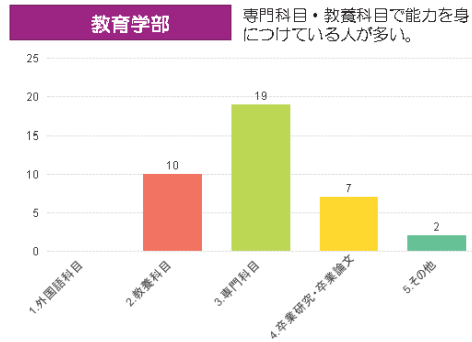
19

2. 基礎力を培えた活動や場面（その3）



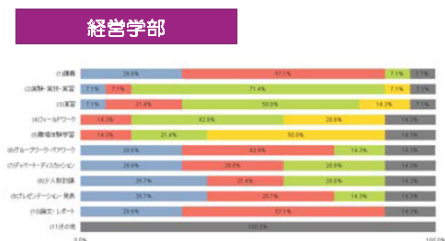
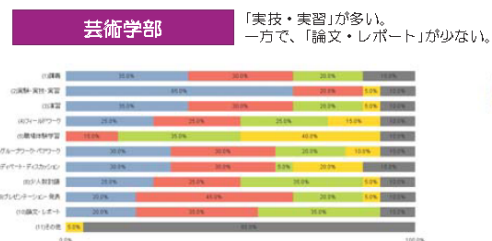
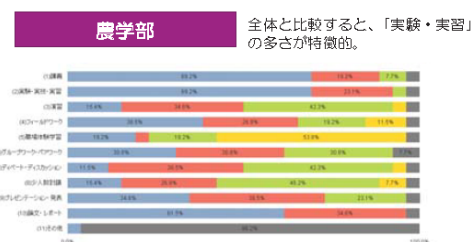
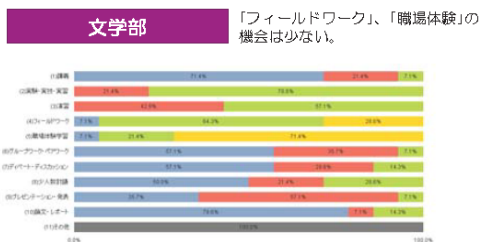
20

2. 基礎力を培えた活動や場面（その4）



21

3. 授業形態について（その1）

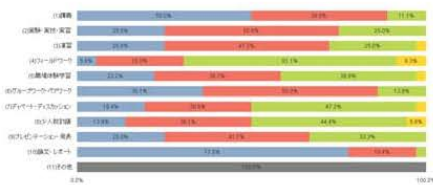


22

3. 授業形態について（その2）

教育学部

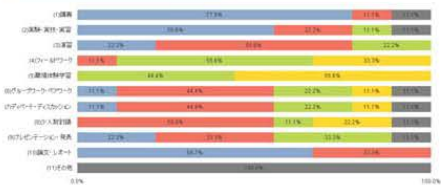
全体と比較すると、「臨場体験実習」の多さが特徴的。



1. 授業
2. 演習・実習・実証
3. 実証
4. 実証
5. 実証
6. 実証
7. 実証
8. 実証
9. 実証
10. 実証

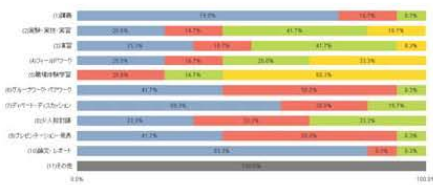
工学部

「臨場体験」の機会が少ない。



1. 授業
2. 演習・実習・実証
3. 実証
4. 実証
5. 実証
6. 実証
7. 実証
8. 実証
9. 実証
10. 実証

リベラルアーツ学部



1. 授業
2. 演習・実習・実証
3. 実証
4. 実証
5. 実証
6. 実証
7. 実証
8. 実証
9. 実証
10. 実証

2018.02

Question

未来の玉川大学を創るのは 貴社の「声」

採用して3年。
貴社が期待する能力とは、
何ですか？

平成26年度玉川大学卒業生を採用された企業の皆様へ
採用企業アンケート調査へのご協力のお願い

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本学の教育研究活動にご理解をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、玉川大学では、卒業後の社会において活躍できる人材の輩出をめざし、様々な教育改革を実施しております。特に注力して進めておりますのは、どのような時代や社会においても通用する高次汎用能力の育成です。このような取り組みは、「社会人基礎力」や「学士力」として求められている社会的ニーズに応えることでもあります。

つきましては、採用企業の皆様に協力をお願いし、採用後に実感されていることをお聞かせ頂ければと存じます。皆様からいただいた貴重な回答を参考に、玉川大学の今後の教育改革に生かしていきたいと存じますので、何卒本アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

敬具

3月9日（金）までに、ご投函いただきますようお願いいたします。

【調査主体・問い合わせ先】

玉川大学 教学部 教務課

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 電話：042-739-8802

回答される方の主観的な捉え方で回答いただいて構いません。率直なご意見をお聞かせください。
 なお、該当者が退職している場合は、採用時の状況をもとにご回答ください。

貴社名 _____ (※無記名可)

Q1

ご回答者の立場について、該当する番号に○印を付けてください。

1. 採用担当 2. OJT 担当 3. 職場の上司 4. その他 ()

Q2

採用した卒業生が在籍していた学部を下記より選び、解答欄に○印を付けてください。

学部	回答欄	学部	回答欄
文学部		教育学部	
農学部		工学部	
芸術学部		リベラルアーツ学部	
経営学部			

Q3

貴社の業種について、以下 1 ～ 21 より一つ選び、該当する番号に○印を付けてください。

- | | | |
|-----------------|--------------------|----------------------------------|
| 1. 農業・林業 | 2. 漁業 | 3. 鉱業・採石業・砂利採取業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道 | 5. 建設 | 6. 製造業 |
| 7. 商社・卸売業 | 8. 小売業 | 9. 金融 |
| 10. 広告・出版・新聞・放送 | 11. 通信・インターネットサービス | 12. IT・ソフトウェア開発 |
| 13. 運輸・鉄道・航空 | 14. 住宅・不動産 | 15. 外食 |
| 16. ホテル・旅館 | 17. 旅行 | 18. 医療・福祉関連 |
| 19. 人材サービス | 20. 教育関連 | 21. その他 () |

Q4

採用した卒業生の現在の職種について、下記 1 ～ 6 より一つ選び、該当する番号に○印を付けてください。
 また、玉川大学の卒業生に今後期待する（向いている）職種について、該当する番号に○印を付けてください。

現在

1. 事務職
 2. 営業職
 3. 研究・開発職
 4. 一般技術職
 5. 専門技能職
 6. その他

今後

1. 事務職
 2. 営業職
 3. 研究・開発職
 4. 一般技術職
 5. 専門技能職
 6. その他

Q5

下記の社会人基礎力 A～L ※は、業務を遂行するうえで、どの程度身につけておいてほしいですか？

また、本学の卒業生は、どの程度身につけていますか？

それぞれ下記選択肢 1～4 より一つ選び、回答欄に○印を付けてください。

期待と実績の回答で、それぞれ 1,2 を選択された方は、どの時期に身につけてほしいか、もしくは、どの時期に身についたと思うかを、合わせて回答欄に○印を付けてください。

期待

社会人基礎力 A～L ※		1		2		3	4
		身につけて おいてほしい	時期		やや身につけて おいてほしい	時期	
			大学時代	就職後		大学時代	就職後
前に 踏み出す力 (アクション)	A. 主体性 (物事に進んで取り組む力)						
	B. 働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力)						
	C. 実行力 (目的を設定し確実に行動する力)						
考え抜く力 (シンキング)	D. 課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力)						
	E. 計画力 (課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)						
	F. 創造力 (新しい価値を生み出す力)						
チームワークで 働く力 (チームワーク)	G. 発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)						
	H. 傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)						
	I. 柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力)						
	J. 状況把握力 (自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)						
	K. 規律性 (社会のルールや人との約束を守る)						
	L. ストレスコントロール力 (ストレスの発生源に対応する力)						

実績

社会人基礎力 A～L ※		身につけている	時期		やや身につけて いる	時期		3	4
			大学時代	就職後		大学時代	就職後	あまり身につけて いない	全く身につけて いない
前に 踏み出す力 (アクション)	A. 主体性 (物事に進んで取り組む力)								
	B. 働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力)								
	C. 実行力 (目的を設定し確実に行動する力)								
考え抜く力 (シンキング)	D. 課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力)								
	E. 計画力 (課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力)								
	F. 創造力 (新しい価値を生み出す力)								
チームワークで 働く力 (チームワーク)	G. 発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)								
	H. 傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)								
	I. 柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力)								
	J. 状況把握力 (自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)								
	K. 規律性 (社会のルールや人との約束を守る)								
	L. ストレスコントロール力 (ストレスの発生源に対応する力)								

※ 社会人基礎力の説明

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱しています。企業や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成していくことが今まで以上に重要となってきました。

Q6-①

大学での授業形態と社会人基礎力の関連について、以下質問します。

以下の回答欄にある授業形態を行うことによって、社会人基礎力は身につくと思いますか？
回答欄の選択肢 1～4 から一つ選び、回答欄に○印を付けてください。

Q6-②

①で1と2を選択した授業についてのみ回答ください。

身につくと思う社会人基礎力がある場合、どの社会人基礎力が身につくと思いますか、
以下の選択肢 A～L から3つまで選び、回答欄に○印を付けてください。

- | | | | | |
|--------|----------------|--------|----------|----------|
| A. 主体性 | B. 働きかけ力 | C. 実行力 | D. 課題発見力 | E. 計画力 |
| F. 創造力 | G. 発信力 | H. 傾聴力 | I. 柔軟性 | J. 状況把握力 |
| K. 規律性 | L. ストレスコントロール力 | | | |

回答欄

授業形態		Q6-①				Q6-②											
		1 身につく	2 やや身につく	3 あまり身につかない	4 全く身につかない	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
(1)	講義形式で知識や理論を教える授業																
(2)	実験・実技・実習形式の授業																
(3)	演習形式の授業																
(4)	フィールドワーク																
(5)	職場体験実習																
(6)	グループワークやペアワークなどの学生同士のコミュニケーションの多い授業																
(7)	ディベートやディスカッションなど学生同士で意見交換・議論する機会の多い授業																
(8)	一つの課題について少人数のグループで討議し解決策を考えさせられる授業																
(9)	プレゼンテーションや発表の機会のある授業																
(10)	論文やレポート提出のある授業																
(11)	その他（ ）																

Q7

今後、玉川大学の卒業生を採用したいと思いますか？

1. 積極的に採用したい 2. 採用したい 3. あまり採用したくない 4. 採用したくない

玉川大学の卒業生に対して、どのようなイメージをお持ちですか？

何かご意見がありましたらご記入ください。

【関連資料】8. ジェネリック・スキル測定テストの実施

① 授業を通して修得できる力」の共通・ルーブリック

「授業を通して修得できる力」の共通・ルーブリック

授業を通して修得できる力	評価項目	4	3	2	1
		期待している以上の到達レベル	十分に満足できる到達レベル	やや努力を要する到達レベル	相当の努力を要する到達レベル
多文化・異文化に関する知識の理解	・多文化・異文化に関する知識の獲得 ・文化の多様性についての理解と説明	多文化・異文化に関する体系的かつ総合的な知識を獲得したうえで、複数の観点から文化の多様性を理解し、的確に説明できる。	多文化・異文化に関する体系的な知識を獲得したうえで、複数の観点から文化の多様性を理解し、説明できる。	多文化・異文化に関する知識を部分的に獲得し、何らかの観点から異なる文化の比較と理解ができる。	多文化・異文化に関する知識を表面的に有し、異なる文化の比較ができる。
人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	・専門知識の体系的な理解 ・専門知識の適正な活用	文化、社会と自然に関する専門的な知識を体系的に理解するとともに、その意味を文化・社会・自然と関連づけて適正に活用することができる。	文化、社会と自然に関する基本的な知識を体系的に理解するとともに、その意味を文化・社会・自然と関連づけて活用することができる。	文化、社会と自然に関する基本的な知識を理解するとともに、その意味を文化・社会・自然と関連づけて部分的に活用することができる。	文化、社会と自然に関する基礎的な知識を理解することができる。
コミュニケーション・スキル	・言語スキル(読み、書き、聞き、話す) ・言語使用 ・言語運用能力	日本語、特定の外国語、その他の伝達様式等を用いて、必要とされる情報を理解し、まとめ、コミュニケーションの目的に応じた内容を適切な方法で伝える(表現する)ことが総合的にかなりできている。	日本語、特定の外国語、その他の伝達様式等を用いて、必要とされる情報を理解し、まとめ、コミュニケーションの目的に応じた内容を適切な方法で伝える(表現する)ことがかなりできている。	日本語、特定の外国語、その他の伝達様式等を用いて、必要とされる情報を理解し、まとめ、コミュニケーションの目的に応じた内容を適切な方法で伝える(表現する)ことが十分にできている。	日本語、特定の外国語、その他の伝達様式等を用いて、必要とされる情報を理解し、まとめ、コミュニケーションの目的に応じた内容を適切な方法で伝える(表現する)ことが最低限できている。
数量的スキル	・数学的形式(※1)で提示された情報を理解し、データの量的分析から結論の導出 ・問題解決のための計算の実行 ・数学的形式を活用して得られた結果の表現	数学的形式(※1)で提示された情報を理解し、データの量的分析から十分に確かな結論を導くことができる。試みた計算はすべて成功し、明確かつ簡潔であり、数学的形式を洞察力をもって活用して結果を適切に表現することができる。	数学的形式(※1)で提示された情報を理解し、データの量的分析から十分に確かな結論を導くことができる。試みた計算はすべて成功し、数学的形式を活用して結果を適切に表現することができる。	数学的形式(※1)で提示された情報の過半を理解し、データの量的分析から結論を概ね正確に導くことができる。試みた計算に求められる一部に対して計算に成功し、結果の表現に数学的形式を部分的に取り入れている。	数学的形式(※1)で提示された情報の理解、データの量的分析からの結論の導出および結果の数学的描写についてそれぞれ最低限できている。
情報リテラシー	・図書館や情報通信技術(ICT)を利用した情報の収集 ・情報の分析に基づく判断 ・情報使用方略(※2)の使用およびモラルに則った活用	図書館や情報通信技術(ICT)を利用して、多様な情報を適切な情報源から効果的に収集し、徹底的な分析により適正に判断することができる。また、情報使用方略(※2)のすべてを正確に使用し、モラルに則って効果的に活用することができる。	図書館や情報通信技術(ICT)を利用して、多様な情報を収集・分析して適正に判断することができる。また、情報使用方略(※2)の3つを正確に使用し、モラルに則って効果的に活用することができる。	図書館や情報通信技術(ICT)を利用して、限られた情報源から情報を収集・分析して適正に判断することができる。また、情報使用方略(※2)の2つを正確に使用し、モラルに則って効果的に活用することができる。	図書館や情報通信技術(ICT)を利用して、手あたり次第に情報を収集し、分析して概ね適正に判断することができる。また、情報使用方略(※2)の1つを正確に使用し、モラルに則って活用することができる。
論理的思考力	・論点の把握 ・適切な根拠 ・多面的理解 ・主張内容の整合性	問題の論点を把握し、適切な根拠(情報、データ等)に基づき、他の異なる主張を踏まえて、自分の主張(結論)を、整合的かつ明快地表現できる。	問題の論点を把握し、適切な根拠(情報、データ等)に基づき、自分の主張(結論)を整合的かつ明快地表現できる。	問題の論点を把握し、適切な根拠(情報、データ等)に基づき、自分の主張(結論)を表現できる。	問題の論点を把握し、根拠(情報、データ等)に基づき、自分の主張(結論)を表現できる。
問題解決力	・問題の発見 ・情報の収集 ・情報の分析、整理 ・解決方法の提案	与えられた課題について、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決方法を多様な視点から提案できる。	与えられた課題について、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決方法を提案できる。	与えられた課題について、問題を発見し、解決に必要な情報を収集できる。	与えられた課題について、問題を発見することができる。
自己管理能力	・総合的理解力 ・自律的研究心 ・継続的研究心 ・発展的研究心	要求されている内容を理解したうえで、自ら要求されたこと以上の事柄を率先して学ぶことにも興味をもち、その機会を作り、実践し、展開していくことができる。またその知識を他の学修に活かす考えをもつことができる。	要求されている内容を理解したうえで、自らその内容に興味をもち、自律的に関連する情報を数多く収集し、継続的に探究することができる。	要求されている内容を理解したうえで、自らその内容を整理し、自律的にさらなる知識を得るために探究することができる。	要求されている内容を理解したうえで、新しい知識や技能を学ぶことを自律的に探究することに興味を示している。
チームワーク	・全体的判断力・統率力 ・他者との考えの共有 ・分担・協力し実践する能力 ・円滑なグループ運営	目標を達成するための課題について関心をもち、グループのメンバーとして考えを共有しつつ他者の意見を傾聴し、さらに目標を達成するための課題を整理して自分の役割を全うすることができる。また、円滑なグループ運営を目指す。他者を気遣うことができる。	目標を達成するための課題について関心をもち、グループのメンバーとして考えを共有しつつ他者の意見を傾聴し、さらに目標を達成するための課題を整理して自分の役割を全うすることができる。また、円滑なグループ運営を目指す。他者を気遣うことができる。	目標を達成するための課題について関心をもち、グループのメンバーとして考えを共有しつつ他者の意見を傾聴し、さらに目標を達成するための課題を整理して自分の役割を全うすることができる。	目標を達成するための課題について関心をもち、グループのメンバーとして考えを共有し、他者の意見を傾聴することができる。
リーダーシップ	・使命の確立 ・意思の伝達 ・組織を統率する力 ・自ら行動する姿勢	他者に目的、方向性、到達点、優先順位、自己と他者の役割を明確に示し、目的の実現に向けて積極的に行動することが総合的にかなりできている。	他者に目的、方向性、到達点、優先順位、自己と他者の役割を明確に示し、目的の実現に向けて積極的に行動することがかなりできている。	他者に目的、方向性、到達点、優先順位、自己と他者の役割を明確に示し、目的の実現に向けて積極的に行動することが十分にできている。	他者に目的、方向性、到達点、優先順位、自己と他者の役割を明確に示し、目的の実現に向けて積極的に行動することができる。
倫理観	・倫理的問題の把握 ・多様な視点 ・倫理的推量 ・よりよい解決策の提案	倫理的問題を的確に把握し、多様な視点をふまえ、自己の立場を分析し、かつ説明できる。さらに、自分の立場に基づく行動をとった場合の影響について考え、よりよい解決策を示すことができる。	倫理的問題を的確に把握し、多様な視点をふまえ、自己の立場を分析し、かつ説明できる。さらに、自分の立場に基づく行動をとった場合の影響について考えることができる。	倫理的問題を的確に把握し、多様な視点をふまえ、自己の立場を分析し、かつ説明できる。	倫理的問題を的確に把握し、自己の立場を分析し、かつ説明できる。
市民としての社会的責任	・社会の一員としての自覚 ・義務の履行と権利の行使の理解 ・社会発展の積極性	社会の一員として高い意識をもち、義務と権利を適切に理解しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。	社会の一員としての意識をもち、義務と権利を理解しつつ、社会の発展のために関与できる。	社会の一員としての意識をもち、義務と権利を概ね理解しつつ、社会の発展のために関与しようとしている。	社会の一員としての意識はもっているが、義務と権利の理解が不十分であり、社会の発展のために関与しようとする姿勢にやや欠ける。
生涯学習力	・発展的な課題への関心 ・主体的に調査・探求する力 ・新たな状況への応用しようとする態度 ・継続的な学習への意欲	授業内容に強い関心を示し、意欲的に学習する。学習した事柄にもとづき、自ら発展的な課題を複数発見し主体的に調査・探求する。それらを、新たな状況に活用できる。今後も継続し、さらに高次へと高めていくという意欲をもつ。	授業内容に関心を示し意欲的に学習し、自ら発展的な課題を発見し主体的に調査・探求する。それらを、新たな状況に活用できる。今後も継続できる。	授業内容を意欲的に学習し、発展的な課題を発見・調査・探求する。それらを、新たな状況に活用しようとする。今後も継続していくという意欲を持つ。	授業内容について学習し、発展的な課題を発見・調査・探求しようとする。それらを、新たな状況に活用する方法を考えようとする。

※1 数学的形式
※2 情報使用方略

等式、グラフ、図、表、言葉
・引用や出典の仕様
・パラフレーズ・要約・引用の選択
・もとの文脈に照らして正しいやり方で情報を使用すること
・常識と帰属を必要とする(=誰のアイデアかを記すべき)アイデアとを区別すること

【関連資料】8. ジェネリック・スキル測定テストの実施

② シラバス作成 Web 画面

授業コード(Class Code)	科目名 (Class)	開講セメスター (Semester)	曜日・時限 (Day of the Week, Period)	単位数 (Credit)	授業担当者 (Instructor)
授業概要 (Course Outline)					
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)					
知識・理解 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Cross-cultural Understanding				
	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 Culture / Society / Nature				
汎用的技能 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening				
	数量的スキル Mathematics				
	情報リテラシー Information Literacy				
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking				○
	問題解決力 Problem Solving				○
態度・志向性 Personal Qualities	自己管理能力 Self-management				
	チームワーク Teamwork				
	リーダーシップ Leadership				
	倫理観 Ethical				
	市民としての社会的責任 Social Responsibility				
	生涯学習力 Lifelong Learning				
「授業を通して修得できる力」の共通・ルーブリック(Competency Goals)					
	評価基準 Valuation Criteria	4 4	3 3	2 2	1 1
	評価項目 Evaluation Item	期待している以上の到達レベル -	十分に満足できる到達レベル -	やや努力を要する到達レベル -	相当の努力を要する到達レベル -
論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking	(1) 論点の把握 (2) 適切な根拠 (3) 多面的理解 (4) 主張内容の整合性	問題の論点を把握し、適切な根拠(情報、データ等)に基づき、他の異なる主張を踏まえて、自分の主張(結論)を、整合的かつ明快に表現できる。	問題の論点を把握し、適切な根拠(情報、データ等)に基づき、自分の主張(結論)を整合的かつ明快に表現できる。	問題の論点を把握し、適切な根拠(情報、データ等)に基づき、自分の主張(結論)を表現できる。	問題の論点を把握し、根拠(情報、データ等)に基づき、自分の主張(結論)を表現できる。
問題解決力 Problem Solving	(1) 問題の発見 (2) 情報の収集 (3) 情報の分析、整理 (4) 解決方法の提案	与えられた課題について、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決方法を多様な視点から提案できる。	与えられた課題について、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決方法を提案できる。	与えられた課題について、問題を発見し、解決に必要な情報を収集できる。	与えられた課題について、問題を発見することができる。
到達目標 (Objectives)					
先行履修科目の有無は、学生要覧で確認すること。					
授業計画 (Course Schedule)					

SUPPORT DESK NEWSLETTER



第3号 2017 年春学期

教育学術情報図書館ラーニング・コモンズ 3 階・4 階サポート・デスク

大学教育棟 2014 の教育学術情報図書館 3・4 階にあるラーニング・コモンズには、皆さんが話し合い学修をするエリアと学修上の「わからない」を乗り越えるためのサポート・デスクがあります。新年度開始に合わせて、News Letter 第 3 号ではラーニング・コモンズ内の各サポート・デスクで何ができるのかを紹介していきます。ぜひ皆さんのこれからの学びに活用してください。

サポート・デスク (IT 支援) 3 階



授業での課題の確認、レポート提出、履修登録、大学からの連絡掲示板の確認など……大学生活には ICT の活用は欠かせません。パソコンの操作がわからない、ソフトウェアの使い方がわからない、パソコンの調子が悪い、そんなことはありませんか。

ラーニング・コモンズ 3 階の ICT 専門の「サポート・デスク」では、皆さんの ICT 活用をバックアップ。専門スタッフが常駐し、皆さんの疑問、質問を解決します。不安があるようでしたら、ぜひ気軽に尋ねてみてください。また、ICT スキル向上のための講習会も開催しています。

*問い合わせメールアドレス: support@tamagawa.ac.jp

春学期開催の講習会

- ◆MyPC 初期セットアップサポート(2017 年度新入生対象*所要時間は約 1 時間)
4/7(金)・10(月)・11(火)・12(水)・13(木)・14(金)10:00~16:30 の間で随時 場所: ラーニング・コモンズ 3 階
- ◆MyPC 講習会: ネットワーク・プリンター接続設定他(2017 年度新入生対象)
4/10(月)・11(火)・12(水)・13(木)・14(金)・17(月)・18(火)・19(水)・20(木)・21(金)17:00~18:50
場所: ラーニング・コモンズ 3 階 Workshop Room301/302
- ◆Microsoft Office 2016 基本操作講習会(全学年対象): Word / Excel 初級 / Excel 上級
5~6 月開催予定。開催日等の詳細は後日お知らせします。

サポート・デスク (アカデミック・スキルの学修支援) 4 階

大学での学修の基本となるレポート・論文の書き方、プレゼンテーションの方法、発表資料の作り方、アイデアの出し方・まとめ方など、アカデミック・スキルズについての学修支援を、月曜日から土曜日まで毎日行っています(開室時間は裏面参照)。個別またはグループでの相談に教員が応じます。

相談に来るのは、「完成」前でも OK! 「下書きの段階」「構想を練っている段階」等、作成段階や締切日に合わせたサポートをします。「添削」はしませんが、問題点を整理し、解決策を見出すためのアドバイスをします。

開室時は予約無しで利用ができるので、ぜひ活用してください。この他に、利用ガイダンスやレポート・論文講座も開催しています。



春学期開催のガイダンス・講座

- ◆10 分ガイダンス: 4/11(火)・12(水)・13(木)・14(金)・17(月)の 15:00 スタート(予約不要)
場所: ラーニング・コモンズ 4 階サポート・デスク
「サポート・デスク(アカデミック・スキルの学修支援)でできること」を紹介!
- ◆基本が学べるアカデミック・スキルズ講座(全学年対象、無料) *詳細は後日お知らせします。
学術的文章の読み方: 6 月上旬開催予定
レポート・論文の作成: 6 月中旬~7 月上旬開催予定

サポート・デスクの使い方が
バッチリわかる！

アカデミック・スキルの
サポート・デスク紹介
10分ガイダンス

❁対象 全学部全学年

❁日時 4月**11**日(火) **12**日(水)
13日(木) **14**日(金)
17日(月)

各日15時より

❁場所 大学教育棟2014
教育学術情報図書館
4階サポート・デスク前



受講者募集中！



**基本が学べる
アカデミック・スキルズ講座**

学術的文章の読み方

レポートや論文を作成するのに必要な
文章の読み方を学ぼう！

全学部全学年対象

6月 1日(木) 2日(金) 5日(月)
13:30～14:00

ラーニングコモンズ 3階
Conference Room 337

教室に直接お越しください



問い合わせ 大学教育棟2014 学術教育学術図書館
ラーニングコモンズ4階 サポート・デスク
または manabi@tamagawa.ac.jp まで

2017年度 春学期

基礎が学べるアカデミック・スキルズ講座 「レポート・論文の作成」

受講無料

全学部全学年が対象です。

大学での学びに必要なレポート・論文執筆のための基本を身に付けることができます。

時 間：16:00～16:50（50分）

ただし「レポート・論文のためのワード操作法」のみ、～17:00（60分）

場 所：ラーニング・コモンズ3階・Conference Room 337

各日定員は15名まで、席に余裕があれば当日参加も可能

申し込み：ラーニング・コモンズ4階 サポート・デスク カウンターもしくは manabi@tamagawa.ac.jp まで

（メールの場合、氏名・学科・学籍番号・希望日をお知らせください）

問い合わせ： 教育情報学術図書館 ラーニング・コモンズ4階
サポート・デスク（アカデミック・スキルズの学修支援）


テ ー マ	1 回 目	2 回 目
レポート・論文の構成	6/14 水	6/27 火
レポート・論文のためのワード操作法 PC持参のこと	6/15 木	6/28 水
伝わる文章の作成法	6/16 金	6/29 木
アイディアの拡張法	6/19 月	7/03 月
情報収集法 PC持参のこと	6/21 水	7/04 火
引用と剽窃(コピペ)	6/22 木	7/05 水
参考文献表記法 ※	6/23 金	7/07 金

※ 「参考文献表記法」に参加の際は、『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』（松本茂・河野哲也、玉川大学出版部）を持参してください。

1回目と2回目の各テーマは同一の内容で実施します。
必要なテーマのみの参加もOK！

SUPPORT DESK NEWSLETTER



2017 年 秋学期号 (第 4 号)

教育学術情報図書館ラーニング・コモンズ 3 階・4 階サポート・デスク

春学期は順調に学修を進めることが出来たでしょうか。学修は授業時はもちろん、授業時間以外にも、ひとりで机に向かっていく中で考えを文字にしたり、グループで話し合ったりして言葉にしていって深めていくことができます。ぜひ、秋学期は春学期以上に、学修を深めていってほしいと思います。

ニュースレター第 4 号では、春学期にラーニング・コモンズ内の各サポート・デスクがおこなった講座や講習会、日々の活動の様子をお知らせします。また秋学期からの学修を「一歩先へ」進めるための情報もお届けします。

サポート・デスク(IT 支援) 3 階

学生が My PC を活用していく上で最低限必要な ICT 技術の習得を図るために、定期的に講習会を開催しています。春学期は以下の講習会を実施しました。

My PC 講習会:「学内 LAN の利用方法」「初期パスワード変更」「プリンタ設定」「メール転送設定」「Office 設定」で、4 月 10 日～28 日の間に 12 回実施しました。

Office 講習会:「Microsoft Word」「Microsoft Excel (初級編)」「Microsoft Excel (上級編)」を 5 月 10 日～6 月 9 日までの間に 12 回実施しました。

サポート・デスク (IT 支援) では、ICT 活用支援の専門スタッフが皆さんの疑問を解決します。ソフトウェア (Word や Excel、PowerPoint など) の使い方、学内ネットワークの接続方法、プリントアウト時の用紙サイズの変更方法、My PC のメンテナンスなどのサポートをおこなっています。ぜひ積極的に活用してください。

メールでの問い合わせにも対応しています。サポート・デスク (IT 支援) アドレスは support@tamagawa.ac.jp です。



サポート・デスク(アカデミック・スキルの学修支援) 4 階

全学生を対象として、随時、個別に支援しています。定期的に講座も開催しています。春学期には以下のガイダンス・講座をおこないました。



10 分ガイダンス:サポート・デスク (アカデミック・スキルの学修支援) について、どのように利用することができるのかについて紹介しました (4 月上旬)。

基本が学べるアカデミック・スキルズ講座「学術的文章の読み方」: 大学で読まれる学術的文章を教材に、文章の構造と要点を把握するためのスキルについて取り上げました。文章の内容を理解し、解釈を「見出し」としてまとめる練習をおこないました (6 月上旬)。

基礎が学べるアカデミック・スキルズ講座「レポート・論文の作成」: レポート・論文を作成するときに、習得しておくべき基本的なスキル (レポート・論文の構成や、引用・参考文献の表記方法、データベースを用いた資料検索法など) を 7 つのテーマで実施しました。必要なテーマだけを選んで参加した学生もいました (6 月中旬～7 月上旬)。

7 月上旬～定期試験期間は「個別支援強化期間」としました。期間中はより多くの学生がサポート・デスクを利用し、より客観的なレポートの作成に取り組みました。なおサポート・デスクでは、いつでも個別の支援をおこなっています。文章は完成してなくても構いません。あらゆる段階で支援をおこないます。ただし「添削」はおこないません。自分の力で解決策を見出すためのアドバイスをします。ぜひ活用してください。

2017年度 秋学期 基礎が学べるアカデミック・スキルズ講座 「レポート・論文の作成」

レポートや文章を書くための基本を身に付けよう！

必要なテーマ回のみでの参加でもOK！

全学部・全学年対象（各日定員15名）

※席に余裕があれば当日参加も可能。



レポート・論文の構成	12月20日(水)
レポート・論文のためのワード操作法 ※1	12月22日(金)
伝わる文章の作成法	1月10日(水)
アイデアの拡張法	1月12日(金)
情報収集法 ※1	1月15日(月)
引用と剽窃(コピペ)	1月17日(水)
参考文献表記法 ※2	1月22日(月)

※1 My PCを持参してください。

※2 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』
(松本茂・河野哲也、玉川大学出版部)を持参してください。

時間: 16:00～16:50 (50分) *「レポート・論文のためのワード操作法」のみ17:00まで(60分)

場所: ラーニング・コモンズ3階 Conference Room 337

申込・問合せ: 教育学術情報図書館ラーニング・コモンズ4階
サポートデスク(アカデミック・スキルズの学修支援)
または manabi@tamagawa.ac.jp まで
→氏名、学科、学年、学籍番号、参加希望日を明記



【関連資料】10. 学修成果の確認と指導

① UNITAMA 面談記録入力率

【関連資料①】

UNITAMA 面談記録入力率（平成28年度 — 平成29年度）

学部学科	平成28年度			平成29年度		
	在籍者数	入力件数	入力率	在籍者数	入力件数	入力率
文学部 国語教育学科	—	—	—	71	71	100.0%
文学部 人間学科	339	138	40.7%	244	75	30.7%
文学部 比較文化学科	261	44	16.9%	116	14	12.1%
文学部 英語教育学科	79	39	49.4%	164	87	53.0%
農学部 生産農学科	—	—	—	165	107	64.8%
農学部 環境農学科	—	—	—	51	51	100.0%
農学部 先端食農学科	—	—	—	68	66	97.1%
農学部 生物資源学科	429	309	72.0%	345	245	71.0%
農学部 生物環境システム学科	318	240	75.5%	250	237	94.8%
農学部 生命化学科	472	252	53.4%	360	196	54.4%
工学部 情報通信工学科	—	—	—	61	61	100.0%
工学部 機械情報システム学科	253	86	34.0%	175	85	48.6%
工学部 ソフトウェアサイエンス学科	309	69	22.3%	294	254	86.4%
工学部 マテリアルサイエンス学科	352	274	77.8%	335	312	93.1%
工学部 エンジニアリングデザイン	92	22	23.9%	145	102	70.3%
経営学部 国際経営学科	576	230	39.9%	598	27	4.5%
教育学部 教育学科	1131	399	35.3%	1154	270	23.4%
教育学部 乳幼児発達学科	299	83	27.8%	320	90	28.1%
芸術学部 パフォーミング・アート	527	237	45.0%	505	220	43.6%
芸術学部 メディア・アート	72	50	69.4%	1	0	0.0%
芸術学部 ビジュアル・アート	53	45	84.9%	2	0	0.0%
芸術学部 メディア・デザイン	279	131	47.0%	379	366	96.6%
芸術学部 芸術教育学科	161	135	83.9%	207	186	89.9%
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	697	358	51.4%	704	356	50.6%
観光学部 観光学科	328	187	57.0%	318	143	45.0%
合計	7,029	3,328	47.3%	7,032	3,621	51.5%

面談入力率：入力数÷在籍者数

※平成30年3月12日現在

※海外留学中の文学部英語教育学科68名、観光学部観光学科115名は在籍者から除外

※平成29年度入力率の赤字は、前年度より上昇した学科を表す。